

がずっと言ってきたことですが、昨年5月8日、「人民日報」がアドバルーンを上げました。「沖縄の帰属は未解決である」と。中国に領有権があるということを示唆する論文を發表しました。そしたら即座に「沖縄は日本のものだ」と反対したのは米国でした。日本よりも米国が早く反応したのです。この後、日本は官房長官が不快感を示しました。沖縄は米国戦略の要ですから、「沖縄を取られたら米国の戦略が成り立たない」ということでしょう。

中国は米国が即座に否定した途端、矛を収めるのですが、「環球時報」で「琉球国復活に向けた勢力を育成していこう」とを書きました。同時に「20年、30年を経て中国の実力が強大になれば幻想ではない」と述べました。つまり、今は力が不足しているから、幻想かもしれないが、もっと力をつけてきたら沖縄は中国のものになると言っているのです。

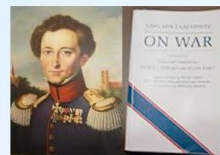
「あれっ」と思ったのは、それに合わせるように、「琉球民族独立総合研究学会」が発表したことです。ニュースにも出ていましたが、事務局は沖縄県宜野湾市にあり発起人は日本人です。この学会の人が、今回の知事選で「1年以内に独立する」という公約で立候補するそうです。沖縄の人がどのように対応するのかわ見ものです。この間、聞いた沖縄の話では「沖縄の人は皆、中国人は大嫌いです」と答えていました<sup>14</sup>。

こういう中国に対して、どのように対応するかが、目下の国際的関心事なのですが、私にはこれに対するには「関与政策」しかないと思います。「関与政策」というのは中国を、非常識な国家から国際法あるいは国際規範に従う国家にしていく、民主主義国家にしてい<sup>く</sup>、これは非常に迂遠な道ですが、中国を戦争でたたき潰すわけにもいかず、グローバル経済下では封じ込めるのでもできない。「関与政策」しかないと思うのです。「関与政策」を成功させるには、先ず相手を知らなければいけない、「敵を知り己を知らば百戦殆からず」です。中国と言う国について、もう少し考えてみましょう。

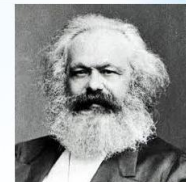
中国という国はどういう国なのか。私がスタンフォード大学に留学しているとき、ごく世話になった中国人の準教授がおりました。彼はミサイルの専門家で、天安門事件で亡命してスタンフォード大学で準教授になっていました。彼曰く、「中国は二人のカールを愛する国だ」と。「二人のカール」とは、「戦争論」を書いたカール・フォン・クラウゼヴィッツとカール・マルクスです。

「二人のカール」を愛する国

### 3 「二人のカール」を愛する国



カール・フォン・クラウゼウィッツ



カール・マルクス

#### ☆「力の信奉者」

「戦争が止まるときは両者の武力が均衡したときだけ」→平和は戦間期  
「戦争は血を流す外交、外交は血を流さない戦争」→「不戦屈敵」「三戦」  
「流血を覚悟して初めて流血無き勝利が得られる」

鄧小平：「**韜光養晦**」「屈辱に耐え、実力を隠し、時を待つ」「棚上げ論」  
毛沢東：「**敵進我退、敵駐我擾、敵疲我打、敵退我追**」

朝鮮戦争以来11回の軍事力行使→「**力の空白**」を作ってはならない、

両者に共通しているのは、「力の信奉者」であることです。「戦争が止まるときは両者の武力が均衡したときだけ」「平和というのは戦間期、戦争と戦争の間の戦間期なのだ」あるいは「戦争は血を流す外交であって、外交は血を流さない戦争」だ。こういう考えが中国の考えだと。だから現在は、武力によって戦争するのは得策ではないから、「不戦屈敵」で行くべきだと。「三戦」つまり心理戦、世論戦、法律戦によって目的を達成することを狙っている。また「流血を覚悟して、はじめて流血無き勝利を得られる」ことも信条とし、流血を厭わない国防力整備、軍備拡張をして相手に臨んでいるということです。

鄧小平の時代、1980年代は「**韜光養晦**（とうこうようかい）」を外交の基本としていました。鄧小平は力の信奉者ですから、「今は実力がないから、外交は頭を低くして下手に出て、揉み手でやるのだ」ということなのです。そして「屈辱に耐え、実力を隠し、時を待つ」。その時に鄧小平が言ったのが「尖閣の棚上げ」なのです。「次世代に解決は任せましよう」と言ったら、「さすが鄧小平、懐が深い」などと無邪気に応じた日本人がいました。その時、日本は外交的にはイエスもノーも言っていません。ですから日本は棚上げ論は受け入れていないことになっています。ただメディアが鄧小平が言った言葉に対して「さすが鄧小平は懐が深い」などと報道したもので、中国としては「棚上げ論」で合意したと都合よく思っている。それを国営化して「棚上げ論」を破ったのは日本だ。こういう論理なのです。

中国は、朝鮮戦争以来11回の軍事力行使をやっています。力の空白には何のためらいもなく侵入してくる。ですから、力の空白は決して作ってはいけなわけです。「韜光養晦」つまり下手に出て外交はやるものだといっていたのが、今や実力が出来て、アメリカと伍していけるような力が付いてきた。「2014年には戦略原潜による核抑止パトロールが開始される」と、年次報告にも出ている。つまり、必要と判断すればアメリカにも核ミサイルを撃ちこむ能力がある。そして「短期通常戦でも勝利する能力を強化する」と。力に自信を持った証拠として、近年とんでもない対米挑発、今までであったら考えられないような対米挑発や対日侮蔑をやるようになりました。5月30日のシャングリア会合では、「米国はアジアの問題に口をだすべきではない」とストレートに言い、返す刀で日本に対し「もって回った言い回しで中国を批判する、安倍首相の素直でない態度に比べれば、中国を名指しにしたアメリカの態度のほうが、まだ素直でした」などと平気で言うようになった。「米国が素直であれば、中国も話し合いに応ぜられる」「敵として扱うならば、中国は断固として米国の敵とならざるを得ない」これは朱成虎中国国防大学教授が前から言っていることなのですが、この頃では「米海兵隊など軍楽隊のようなものだ」、「軍楽隊を相手にするつもりはない」と、「こんなことを言うようになった。完璧に「韜光養晦」から離脱したということと言えます。」

今は「大有作為」ということを言っています。適宜蓄えた力を一挙に発揮するという意

「**韜光養晦**」からの決別（国際協調主義から転向）  
「2014年、**戦略原潜**による**核抑止パトロール**開始」  
「台湾、周辺諸国に対する**短期通常戦**で勝利する能力強化」（年次報告書）  
↓  
**核恫喝**のみならず**通常戦力**での**恫喝戦**に自信  
↓（**対米挑発**、**対日侮蔑**）  
「米国はアジアの問題に**口を出すべきでない**」「持って回った言い方で中国を非難した**安倍首相の素直でない態度**に比べれば、中国を名指しで批判した**米国の態度は素直でまだましだ**」「**米国が素直ならば**中国も率直に話し合いに応じられる」（アジア安保会議 5.30）  
  
「もし米国が中国をパートナーと扱うならば、中国は協力的なパートナーになるであろう。米国が中国を**敵として扱うならば**、中国は**断固として米国の敵**とならざるを得ない」（国防大教授朱成虎少将）  
  
人民解放軍幹部の侮蔑的発言  
「米海兵隊など、**軍楽隊**のようなものだ。沖縄で中国を睨んでいるつもりだろ


味です。また「積極有所作為」、つまり、なすべきところをなして成果を挙げる、ということ。我々はこの変化をしっかりと直視しなければいけないと思います。

「力の信奉者」の常道

「力の信奉者」の常道  
→「力の空白」には躊躇なく入り込む

事例

- ・ 73年米軍撤退→74年西沙諸島
- ・ 85年ソ連カムラン湾一部撤退  
→88年南沙諸島
- ・ 92年スービック、クラーク基地  
→92年「領海法」  
→95年「ミステーフ環礁」  
→98年「スカボロー環礁」
- 13年 海洋監視船、ブロック  
→14年 ジョンソン



- ・ サラミ・スライシング戦略  
→アクサイチン高原（54～62年）

力の信奉者というのは力の空白には躊躇なく入り込みます。過去を見れば一目瞭然です。1973年に、米国はベトナムからほうほうの体で撤退しました。そうすると、力の空白ができました。そしたら何をやったか。米軍が撤退するや、あつという間にベトナムが専守中の永興島（図示）を軍事占拠して滑走路まで作ってしまいました。2600メートルという航空自衛隊使用の滑走路と同じです。

「永興島 占拠」

すると1988年、南沙諸島の「赤い瓜」と書へジョンソン環礁とシントン岩礁を軍事占領しました。64名のベトナム兵が岩礁の上で手をつないで「俺たちのものだ」と主張しているのを、中国海兵隊が30ミリ機関砲で殺害するところが、ネットに公開されてい

**85年 ソ連海軍カムラン湾から一部撤退**  
88年南沙諸島（スプラトリー）：ジョンソン（赤瓜）環礁を軍事占拠  
シントン岩礁中国駆逐艦4隻攻撃ベトナム海兵隊64名殺害  
ベトナム輸送船二隻撃沈、一隻大破



TU-95





(1979年ソ連政府、25年間の基地の租借→ロシアに引き継がれ2002年に完全撤退)

〔ソ連海軍カムラン湾から撤退〕

た。  
85年には、カムラン湾からソ連海軍の一部が撤退し、南シナ海に力の空白がで

**73年ベトナム戦争終了 米軍撤退→「力の空白」**  
74年ベトナム軍が占守中の「永興島」（西沙諸島パラセール）占拠



ベトナム海軍艦艇1隻喪失 34名犠牲  
永興島に2600mの滑走路、軍事基地建設